



**谷上駅**  
**スタート・ゴール**  
 わくわくスタンプラリー!!  
 もスタート受付で押印します  
 ※スタンプラリー台紙はお一人様一枚、  
 賞品の引換はお一人様一度限りです



～ご案内～  
 本日のコースは往路のみ  
 案内スタッフの配置・  
 矢印の設置をしていますが、  
 最終パトロールスタッフの  
 往路通過と共に矢印を撤去し、  
 案内スタッフの配置も終了します。

- 《神鉄ハイキングに参加される皆さまへ》
- ・当日、体調がすぐれない方は参加をご遠慮ください。
  - ・熱中症にならないように、こまめに水分補給を心がけましょう。
  - ・ハイキング参加中に生じた参加者の事故やケガ、  
 または参加者が他に与えた損害については主催者は一切その責任を負いません。  
 万一、事故等が生じた場合の費用については、参加者の負担となります。
  - ・タバコの火の後始末は確実に！ゴミ・空き缶は必ず持って帰りましょう。
  - ・交通ルールを守り、道路横断時等は車に十分注意してください。
  - ・係員の指示・注意事項は必ず守ってください。

**神戸市立森林植物園  
 入園料**  
 マップご提示で  
**大人 300円→240円に！**  
 ※2024年5月11日(土) 当日限り有効  
 兵庫県内に居住する65歳以上の方で  
 公的機関が発行する証明書をお持ちの方は  
 無料です。

道路を横断する際は、  
 車の接近など安全を  
 十分確認してから  
 横断してください。

**神戸市立森林植物園**

**神鉄ハイキング マップ片手にフリーハイキング**  
**森林学びハイキング「六甲山の森づくりと木材活用を知る」**  
**山田道・森林植物園散策コース (神戸市建設局共催)**  
 とき:5月11日(土) 谷上駅 9:00~10:00 集合スタート  
 コース:谷上駅~山田道~森林植物園(有料)~谷上駅 (約8キロ・一般向き)  
 所要時間の目安:2時間00分(休憩時間を除く)

# < 森林植物園で森づくりを学んでみよう >

神戸市建設局

## 今、なぜ森づくり？

現在、私たちが直面している生物多様性の確保、土砂災害の防止、異常気象への対応といった問題は、森林がその解決に大きな役割を担っています。

かつて、森林は、薪や木材など我々の生活と密着していましたが、近年人々は森に入ることが少なくなり、放置される森林が多くなってきました。

実は、森づくりは自然に任せているだけでは、十分な役割を果たすことができません。私たち人とのかかわりが大切になってきます。

## 神戸市の取り組む森づくり

神戸市は、大都市でありながら、市街地のすぐそばに神戸のシンボル「六甲山」があります。

今は豊かな森ですが、今から150年前までは「はげ山」の状態、土砂災害も度々起こっていました。このため、神戸市では六甲山における植林を進め、現在は豊かな森を取り戻しています。

一方、一時期に植林が進められた結果、生育する動植物の樹種や樹齢が似通ったものになって、世代交代ができていないところが多くあります。

また、十分な手入れができおらず、このままでは土砂災害の発生、景観の悪化、病害虫の発生などが懸念されています。

このようなことから、神戸市では、市の所有する森林だけでなく私有林についても、間伐や樹種更新など将来にわたって豊かで安全な森林の育成に努めていきます。



明治初期の「はげ山」の状況



植林150年後の緑豊かな状況



次世代に向けた森の手入れ

## 森林植物園の歴史

森林植物園は、市街地からすぐ近くの六甲山地の一角にある自然を最大限に活用した総面積142.6haの広大な植物園です。園内には、約1,200種の樹木を中心に、北アメリカ産樹林区、ヨーロッパ産樹林区、アジア産樹林区、日本産樹林区など世界各地の樹木が原産地別に、植栽展示される日本でも類を見ない植物園です。



## 森林植物園における樹木管理

森林植物園では、樹木の本来の形を再現するため、剪定や枝打ちなどを極力行わないような手入れを行っています。その姿を見て、樹木が自然環境の中でどのように工夫してきたかを想像してみてください。また、園内から周囲の山を見わたすと、かつての松林を中心とした森林から広葉樹中心の森へと移り行く景観が確認できます。



## 森林展示館で「森林と人のかかわり」について学ぼう

令和4年3月にリニューアルした森林展示館では、「森林と人のかかわり」をテーマに、ジオラマ「森林生態系-いきものつながり-」、森林と人との関わりをテーマとしたパネル展示、森林にまつわる本に親しめる図書コーナーなどを新たに設置しています。また、壁面や床面では園内で手入れをした発生材を使うなど、みなさんが森林や自然に憩い・楽しみ・学ぶことができる場所となっています。

